



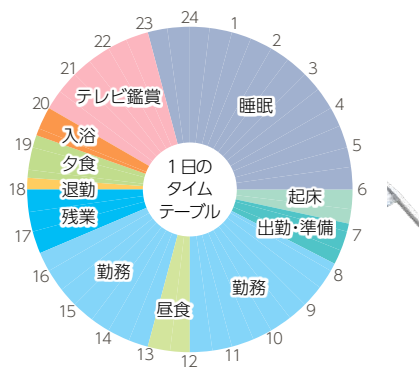
「ものづくりのさまざまな工程に携われるところに、中小企業ならではの『面白み』があります。一つの技術を極めることが求められる業界ですが、オールラウンドプレイヤーも必要。大谷選手のような二刀流、いや三刀流のような」と舟木社長は笑顔を見せます。

3年前から、一人の社員が複数の技術・技能を身につける「多能工化」の教育に取り組み舟木電業社。状況に応じて複数の業務に対応できる体制を目指しています。一つの工程に多くの社員が関わることで、新たな課題や社員の隠れた才能の発見にもつながりました。

国内外の鉄道で使われる、リレーコイルや回路コネクターなどの車輛用電気部品の製作と、その絶縁処理・粉体塗装を手掛ける舟木電業社。これらの電気部品は、緊急列車停止装置や自動ドアの開閉など、鉄道のあらゆる部分で使われています。

入社5年目で工場長を務める渡辺智吉さんは「私たちが作る部品は、外からは見えない、鉄道を縁の下から支える部品。しかし、世界中で毎日たくさんの人やモノを運ぶ、鉄道の一部を作る一人として、大きなやりがいと責任を感じる仕事です」と話します。

「全ての工程で気を抜かず、確実に正確な仕事を継続することで、お客さまに品質を約束することができます。常に責任と誇り、そして、向上心を持って仕事に向き合うことで、良いものづくりができると信じています」



中小企業で「ものづくりの万能選手」を育成



工場長
渡辺 智吉さん(44)
市内在住、日立市出身。
平成29年入社。

取材協力企業
(株)舟木電業社
大成町14-19
☎272-4331

代表者：代表取締役 舟木 健生けんしゅう
創業年：1954年12月（昭和29年）
資本金：1,200万円
従業員数(男/女)：30人(23人/7人)
平均年齢：46歳
月平均残業時間：約15時間
R2年採用：新卒：0人/それ以外：5人
勤務時間：8:00～16:45(年間休日126日)
有給休暇の平均取得日数 10日/年

働く暮らし
好きなになる

ひたちなかを

Vol.13
日本の産業を支える市内中小企業でいきいきと働く人たちを紹介します。

海の近くで生まれ育ったので、小さい頃から自然と触れ合うことが大好きでした。中でも釣りは、子どもたちと一緒に楽しむにも、一人でリラックスするにも最高のアウトドアです。

ひたちなか市で自然を満喫できるスポットといえば、国営ひたち海浜公園。ネモフィラが有名ですが、3月に見頃を迎える「早咲きスイセン」がおすすめです。清々しい香りに癒されたいという方、ぜひ足を運んでみてください。



国営ひたち海浜公園